

～令和5年度飛騨市公民館講座開催レポート 第4号～

【エレガントに！カジュアルに！風呂敷の結び方・包み方講座】

8月1日(火)に、風呂敷を便利に活用する方法を学ぶ講座を古川町公民館で開催し、8名に参加していただきました。講師には、市内呉服屋店主の三浦 順子氏にお願いしました。

「戦国時代にはすでに使われていたが、広く使われるようになったのは江戸時代から。この頃から物を包むことに使用され始めたため広まったのではないか」というような風呂敷の歴史についてのお話を聞きました。また、家紋のついたものを使う際には、物を包んだ時に家紋が中央に来るように包むといった作法の説明を受けました。そして実際に、進物に見立てた箱を風呂敷で包み、お渡しする練習をしました。他にも、球状のものやティッシュボックスの包み方も学びました。風呂敷の他にも、大きなハンカチやバンダナを使っても包めるという事も教えていただきました。

包み方を工夫するだけで、ペットボトルホルダーやエコバックにも変身することも学び、自分の好きな柄のペットボトルホルダーで水分補給ができたり、エコバックで買い物ができたりするといった工夫も学べた講座でした。また、最近では撥水効果のある風呂敷が出てきたので、災害時に水を運んだり、雨露を防いだりでき、小さく畳むこともできるので、1枚カバンに忍ばせていると活躍することも教わりました。

参加者から、「風呂敷は慶弔の時くらいにしか使っていなかったが、今回の講座でいろんな形や大きさのものを包んだり運んだりできる事を学べたので、活用の幅が広がりました！」「風呂敷が災害の際に役立つとは！日本の文化はすごい！大変勉強になりました」といった感想をいただきました。

